

文化財情報の分析・活用と公開に関する調査研究 (シ05)

目的 東京文化財研究所で行われている調査研究に関する情報及び国内外の文化財に関するさまざまな情報について分析し、それらの情報を文化財保護に対して活用するための調査研究を実施する。また、それらの情報の効果的な公開の手法に関する調査研究を行う。

- 成果**
1. デジタル画像の形成方法の研究開発
 - ア) 運営費交付金や外部資金による他プロジェクトの一環として、東京文化財研究所内外において、重要文化財准胝観音像（東京国立博物館所蔵）、国宝十二天像（京都国立博物館所蔵）など多数の文化財の光学的調査を実施、一部は成果報告書を編纂した。また、調査研究の成果を論文等で発表した。
 - イ) 『春日権現験記絵巻七・巻八 光学調査報告書』を2020（令和2）年2月10日付で刊行した。
 - ウ) ガラス乾板に記録された色情報に関する予備調査として、広島市立大学、沖縄県立博物館・美術館等での聞き取り調査を実施した。
 2. 文化財情報に関する調査研究

文化財情報研究室で構築したウェブデータベースとその構築過程、及び運用についてまとめ、成果を論文や学会等で発表した。
 3. 東京文化財研究所が行う調査研究成果の発信
 - ア) 文化財情報の適切な発信のための情報の扱いに関する調査研究を進め、学会や論文を通じて発表した。
 - イ) 展示収蔵施設の学芸員、自治体の文化財担当者などの実務家を対象に、2019（令和元）年12月2日、「文化財の記録作成とデータベース化に関するセミナー」を開催した。
 - ウ) 研究成果を紹介するパネルをエントランスロビーで展示した。令和元年度は保存科学研究センターの「高松塚古墳壁画・キトラ古墳壁画の保存修復」であった。
 4. 調査研究及び研究成果発信のための文化財情報基盤の整備・充実
 - ア) ネットワーク機器及びソフトウェアの保守・監視を実施、国立文化財機構内他施設の担当者との情報交換を行いセキュリティ水準の維持・向上に努めた。また、職員の情報セキュリティへの意識向上を目的に、「情報システム部会研修会」を1回開催した。なお、所内の情報基盤整備及びセキュリティ関連業務は、各部・センターの情報システム部会員と連携して実施している。
 - イ) 所内一所外間を接続するL3スイッチを更新し、セキュリティレベルの向上を図った。また、オプティカル・ディスク・アーカイブ (ODA) を導入、デジタルデータの保存性を高めた。

ウェブサイトアクセスランキング

1	東京文化財研究所トップ	6	『保存科学』
2	ガラス乾板データベース	7	『日本美術年鑑』所載美術界年史彙報
3	書画家人名データベース	8	黒田清輝日記トップページ
4	『日本美術年鑑』所載物故者記事	9	久野健寄贈資料
5	黒田清輝日記（日付別）	10	年記資料集成

(令和元年度 上位10位まで)

ウェブサイトの主な更新履歴

年月日	更新内容	関係部局
19.4.8	国際シンポジウム「メソポタミア文明の遺産を未来へ伝えるために」開催	文化遺産国際協力センター

19.4.10	ワークショップ「染織品の保存と修復」2019 開催	文化遺産国際協力センター
19.4.26	ワークショップ「漆工品の保存と修復」2019 開催	文化遺産国際協力センター
19.5.8	売立目録デジタルアーカイブ 公開	保存科学研究センター
19.5.8	報告書『日本における染織文化財の保存』公開	東京文化財研究所
19.5.10	【日本博】東京シシマイコレクション2020 プレイベント 開催	無形文化遺産部
19.6.6	文化財修復処置に関するワークショップーゲルやエマルジョンを使用したクリーニング方法ー 開催	保存科学研究センター
19.6.12	国際集会「日本絵画の修復」開催	文化遺産国際協力センター
19.6.12	エントランスロビーパネル展示「高松塚古墳壁画・キトラ古墳壁画の保存修復」	保存科学研究センター
19.8.15	文化財修復処置に関する研究会ークリーニングとゲルの利用についてー 開催	保存科学研究センター
19.8.20	東京国立博物館・東京文化財研究所の共同研究による国宝平安仏画ウェブコンテンツ 公開	文化財情報資料部
19.10.1	第53回オープンレクチャー かたちからの道、かたちへの道 開催	文化財情報資料部
19.10.16	無形文化遺産国際研究者フォーラム(12月17日・18日) 開催	無形文化遺産部
19.11.17	Getty・リサーチ・ポータルでの日本の美術展覧会カタログ 公開	文化財情報資料部
19.11.1	文化財の記録作成とデータベース化に関するセミナー 開催	文化財情報資料部
19.12.13	シシマイフォーラム2020 開催	無形文化遺産部
19.12.18	「東京シシマイコレクション」ウェブサイト 開設	無形文化遺産部
20.1.8	第13回公開学術講座「染織技術を支える草津のわぎ 青花紙ー花からつくる青色ー」 開催	無形文化遺産部
20.1.15	文化財修復処置に関するワークショップーナノセルロースの利用についてー 開催	保存科学研究センター
20.2.3	国際研修「紙の保存と修復」2020 開催	文化遺産国際協力センター
20.2.14	国際研修「世界遺産のための遺産影響評価に関する研修」開催	文化遺産国際協力センター

(定期刊行物の公開、活動報告、公募情報を除く)

論文・小山田智寛：「文化財データベースの作成とその意義について」『美術研究』429 東京文化財研究所 pp.65-74 20.1 ほかに4件

発表・OYAMADA, Tomohiro, et al.: Two solutions for orthographical variants problem 2019 CIDOC annual conference (第25回ICOM(国際博物館会議)京都大会2019) 19.9.3 ほかに3件

刊行物・『春日権現験記絵巻七・巻八 光学調査報告書』 20.2

研究組織 ○二神葉子、江村知子、塩谷純、小林公治、小林達朗、小野真由美、安永拓世、橘川英規、小山田智寛、米沢玲、城野誠治、三島大暉、逢坂裕紀子、谷口每子、安岡みのり、丸山礼、手呂内孝憲(以上、文化財情報資料部)

広報委員(情報システム部会)：佐野千絵(保存科学研究センター長) 各部署情報システム部会員：安達佳弘、大島大輔(以上、研究支援推進部)、小野真由美(文化財情報資料部)、石村智(無形文化遺産部)、倉島玲央(以上、保存科学研究センター)、加藤雅人(文化遺産国際協力センター)

広報委員(年報部会)：山梨絵美子(副所長) 各部署年報部会員：安川政和、井上裕介、三本松俊徳(以上、研究支援推進部)、小林公治(文化財情報資料部)、久保田裕道、前原恵美(無形文化遺産部)、倉島玲央、中山俊介(保存科学研究センター)、友田正彦、安倍雅史(文化遺産国際協力センター)

プロジェクトの一部として実施した研究集会・講座等

文化財情報資料部

文化財の記録作成とデータベース化に関するセミナー（シ05の一部として実施）

文化財目録は、文化財に関する最も重要な情報の一つであり、展示や貸出の計画立案など活用のための基礎情報ともなる。また、視覚的な情報である写真も、目録と併せて保存・管理することで、文化財及び関連する情報の適切な保存や活用を可能とする。標記のセミナーでは、展示施設や自治体、修理技術者や研究者など、文化財の記録作成を必要とする実務者への関連の情報提供を行った。

日 時：2019（令和元）年12月2日（月） 13：00～18：00

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

主 催：東京文化財研究所

参加者：124名

報 告：・二神葉子（東京文化財研究所） 趣旨説明「文化財の記録作成、データベース化の意義」
・小山田智寛（東京文化財研究所） 「文化財情報のデータベース化およびその活用について」
・城野誠治（東京文化財研究所） 「文化財情報の記録—文化財の写真について—」

無形文化遺産部

第13回無形文化遺産部公開学術講座（ム01の一部として実施）

無形文化遺産部では、無形文化財ならびに文化財保存技術の伝承形態を把握し、その保護に資するため、毎年、公開学術講座を行っている。今年は、「染織技術を支える草津のわざ 青花紙—花からつくる青色—」を2020（令和2）年2月6日に開催した。本講座は、平成28-29年度にかけて滋賀県草津市と共同で行った青花紙製作技術の調査の成果を中心に、調査から2年が経過した現状の報告も交えて開催した。

日 時：2020（令和2）年2月6日（木） 10：30～17：00

会 場：東京文化財研究所 セミナー室

参加者：90名

内 容：【講演】

菊池理予（無形文化遺産部）

「青花紙利用の現状

—染織技術者への聞き取り調査を通じて—」

岡田裕美（草津市立草津宿街道交流館）

「草津市と青花紙—青花紙製作技術の保護に向けて—」

石村智（無形文化遺産部）

「文化遺産としての青花紙」

【座談会】「染織材料としての青花紙」 司会：菊池理予（無形文化遺産部）

鈴田滋人（重要無形文化財保持者/木版摺更紗）

岡田裕美（草津市立草津宿街道交流館）

石村智（無形文化遺産部）

【特別上映】

『青花紙製作技術の工程記録』（2018年制作：東京文化財研究所）

青花紙の記録映画『草津市の花 青花 伝承の青花紙』（1999年制作：草津市他）

